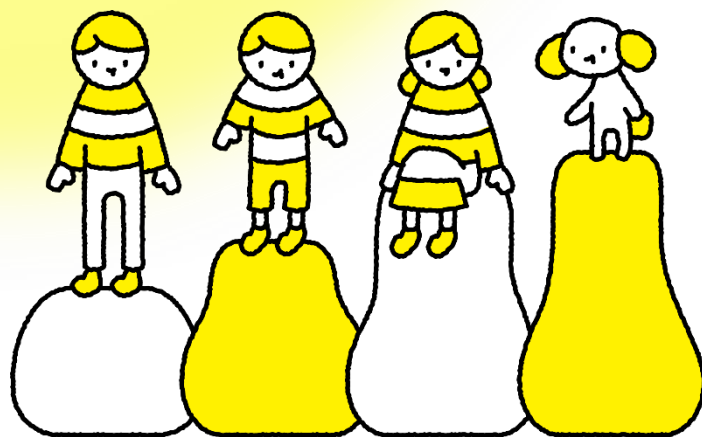


保育者の皆様へ

こども理解で保育をたのしもう！

～こどもの育ちと支援をつなぐために
施設巡回を通して～



神戸市こども家庭局 幼保振興課 幼保事業課

保育者の皆様へ

こどもの育ちと支援をつなぐために

神戸の教育・保育に携わるすべての皆様におかれましては、未来をともに生きる神戸のこどもたちのために、日々ご尽力いただき感謝申し上げます。

保育者は、発達が多様な乳幼児期のこどもの実態を的確に把握し、こどもが安全かつ安心できる環境の中で、自己を十分に発揮できるように見通しをもった教育・保育を行なう。そのために丁寧にこどもの姿を読み取り、その子らしさを受け止めながら、持てる力を発揮できる環境や支援を行うことが大切です。

神戸市では令和7年度より、従来の「すこやか保育」を拡充し、「障がいがある・なし」や「こどもの置かれている状況や背景」にかかわらず、多様なこどもたちがかわり合いながら育ちあえる「まるっとはぐくみ支援」を加えたインクルーシブ保育推進支援事業を実施しました。

この冊子は、各施設巡回で出会うかわいいこどもたちと、日々こどものため一生懸命に保育を工夫されている皆様への参考になればと願って作成しました。また、教育・保育の計画作成や、こどもに関わるすべての人との語り合いに役立てていただければ幸いです。

令和7年4月

神戸市こども家庭局 幼保事業課 指導研修担当

目次

保育者の皆様へ
こどもの育ちと支援をつなぐために

こども理解で保育をたのしもう！

1. 保育者として大切にしたいこと	1
2. こどもの行動には理由があります	3
3. 仲間と共に一人一人のこどもをはぐくみましょう！	6
4. こどものアセスメントについて	7
(1) 「はぐくみシート」を活用しよう	8
(2) 「はぐくみシート」の記入例	9
(3) 「はぐくみシート」の児童の状況欄の補足説明	10
(4) 「はぐくみシート」を利用して教育・保育の質の向上と個への支援の充実を	13
5. 神戸市発達支援保育リーダーについて	14
6. インクルーシブの視点で考えよう	15
7. クラスが落ち着くために	23
8. ワンポイントメッセージ	26

こども理解で保育をたのしもう！

～こどもの育ちと支援をつなぐために～

KODOMETTO KODOMETTO KODOMETTO KODOMETTO KODOMETTO

1. 保育者として 大切にしたいこと

「みんなちがってみんないい」

多様性を尊重し、ありのままのこどもの姿を受けとめ、寄り添いましょう。

①こどもの行動にはすべて理由があります

- ・「どうしよう」のまえに「なんでだろう」と考える
- ・目に見えることだけにとらわれない
- ・行動の意味を考えて仮説を立てる
- ・それぞれのこどもが持つ発達の特徴から考える



②こどもの成長は意欲を育ててもらうことから

- ・できる、できないではなく、やろうとする姿、気持ちを認めてもらうことが大切
- ・できなくても繰り返し丁寧に教えてもらうことが今後の成長に繋がる



- ・数値では測れない力、いわゆる非認知能力(社会情動的スキル)が培われ「おもしろそう」「やってみたい」「不安でも大丈夫」と主体的な学びに繋がっていきます



③こどもと仲良くなりましょう

- ・とにかくこどもの好きなこと（例えば 車、虫、キャラクターなど）を見つけ、一緒に遊んで仲良くなる
- ・困った行動は見て見ぬふりでスルーし、何も起きてない時こそ注目して認める
- ・スモールステップで次の意欲につなげよう

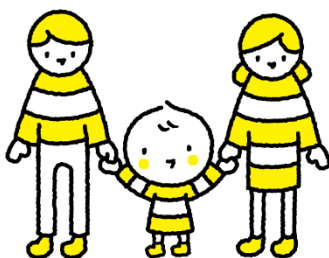


- ・うまくいかない時もあきらめずに支援を続け、こどもの成長を待ちましょう
- ・保育者の思いがいつかブーメランのように返ってくることを信じましょう

④こどもを包み込むようなまなざしが 安心感や信頼感の源です

- ・個々の発達に応じた関わりをする
こどもの成長は、階段を上るように一歩ずつ
こどもの発達はらせん状に進む
「CCQ」を心掛けて…calm（穏やかに）
close（近づいて）
quiet（静かなトーンで）
- ・「困っているのはこども」を思い出し、一人ひとりに丁寧に関わる
- ・うまくいかないのは、環境のシステムエラーととらえ、新しい方法を考える

大人もこどもも安心できる環境をチームで作りましょう



こどもの行動には必ず理由があります。

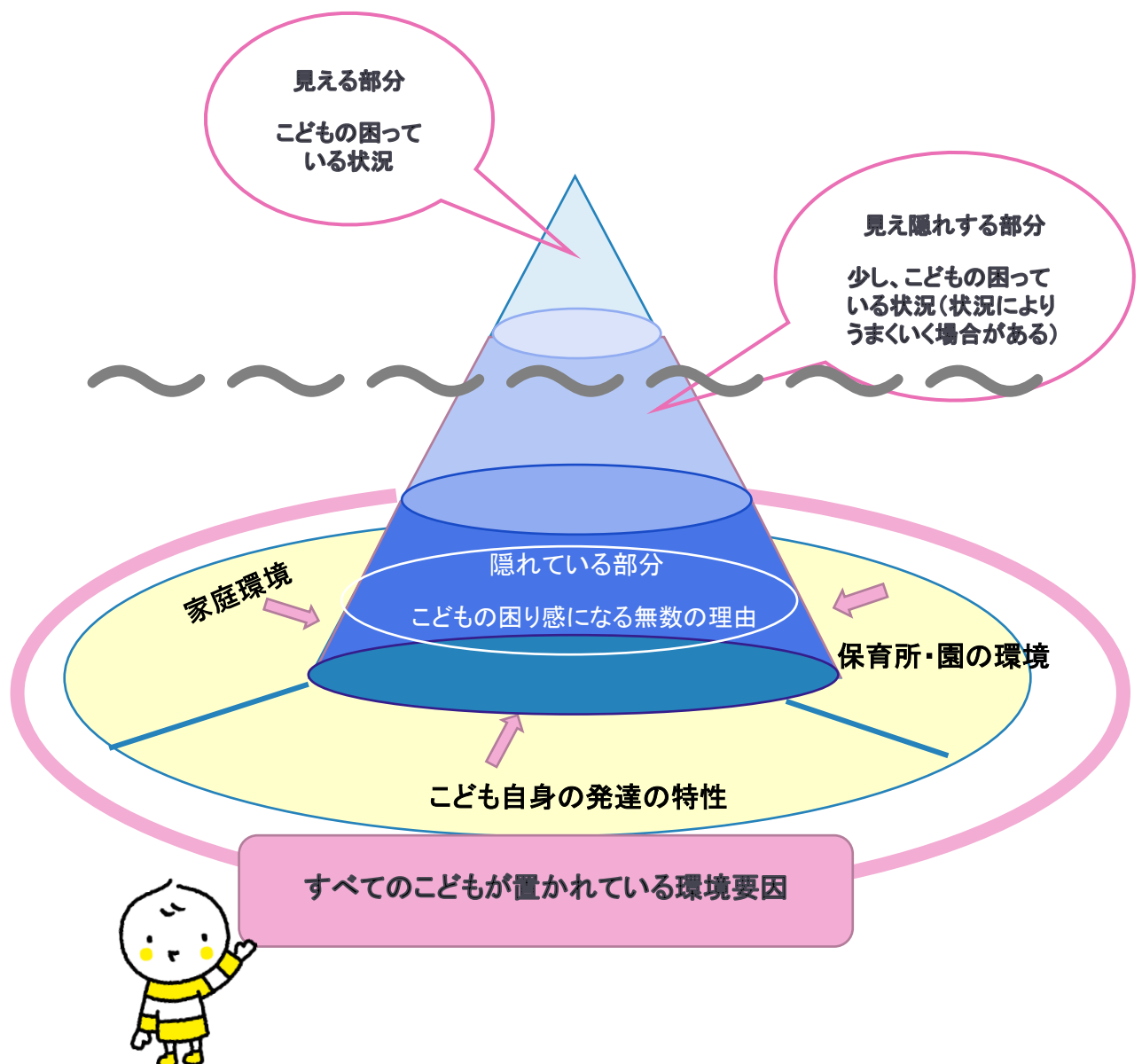
こども理解が支援の第一歩です。

仲間と共に踏み出しましょう！

2. こどもの行動には理由があります

こどもが困っている状況の背景には、様々な理由が隠れています。

一方向だけでなく、多面的な視点で行動の理由を考えていきましょう。





(こどもの困っている状況)

【例えば】…『遊びが変わるときに

部屋を飛び出す A さん』

どうしたらいいんだろう。。。 

こどもの行動には、必ず理由があります。
どうしようか、
どうすべきなのかと考えるのではなく、
まず、その行動の前に何が起きていたのか
思い返してみましょう。

人が多いとイヤなのかな

過敏さがあるのかな

もっと遊びたかったのかな

なんでだろう??

【なんで部屋を飛び出したのだろう?】

自信がないのかな

次の活動は苦手なのかな

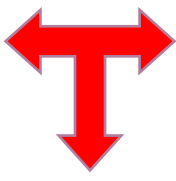
寝不足なのかな

さっき先生に注意されてたなあ

うまくいかないから
イライラしてしまうのかな



なんでだろう??

と考える癖をつけると。。。 

たとえうまくいなくても
「私のことわかろうとしてくれている」
「ぼくのことわかってくれた」
「そのままを認めてくれて嬉しい」
こどもが安心すると信頼関係が更に深まります 

こどもの背景、状況、気持ちが
わかってくる

いろんな見立てができると、
その子に見合った支援の方法
がたくさん見つかります

ここが支援のスタートです！

支援がこどもの育ちに合っていた場合

- ・その時にその行動を忘れずに褒めよう。
- ・褒めることでこどもの自信に繋がります。
- ・できた、わかったという経験の積み重ねは安心感が得られます。それは、感覚過敏の軽減や次のステップへの意欲に繋がります。

気をつけよう！

褒めた後に
「いつもこうだといいんだけどね」と
つぶやいていませんか

最後に否定されると、こどもががんばったことも取り消された状態になります☹



やった～！自分も褒めよう



支援がこどもの育ちに合わない場合もあります

- ・そんな時もあります。

少し目標を下げて、その子の無理なくできることを設定し、かかわってみましょう。

それでもうまくいかない時には、角度を変えて理由を探ったり、かかわり方や環境を変えたりしてみましょう。

- ・もしかしたら他の職員が知っているかもしれません。

朝の受け入れ時はどうだったのか、家ではどうだったのか、こどもにとって嫌なことはなかったのか、友だちとのトラブルはなかったのか、どこかでがんばっていなかっただろうか。

情報共有から理由が探れることもあります。

- ・うまくいった支援でも、ときにはうまくいかない時もあります。（～_～;）

あなたが悪いではありません。タイミングや環境など入り混ざっているのです。

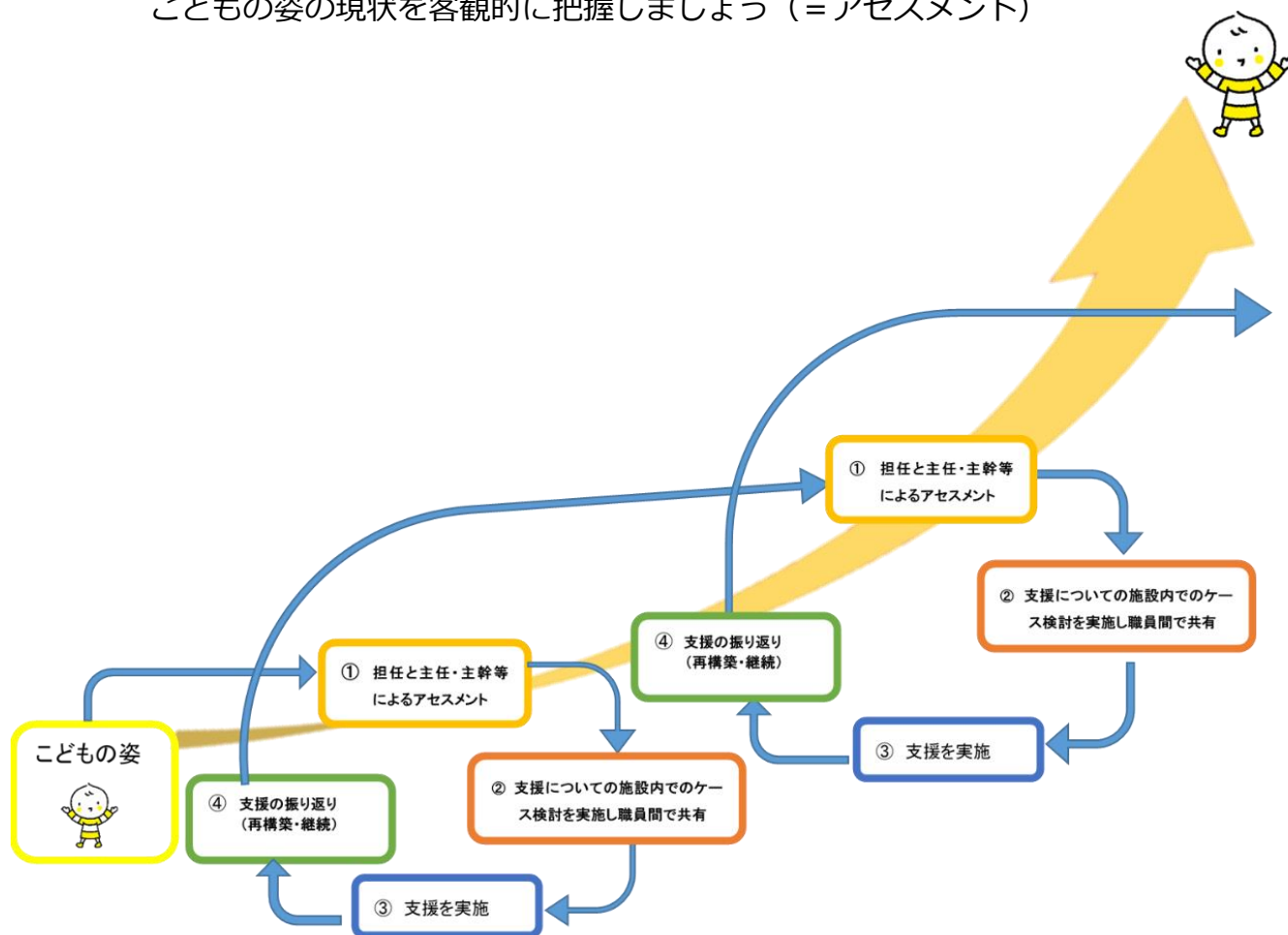
時には支援を行う場所や担当保育者など変えてみるのもいいでしょう。

一人で抱えないでチームで支援していきましょう



3. 仲間と共に一人一人のこどもをはぐくみましょう！

こどもの姿の現状を客観的に把握しましょう（＝アセスメント）



- ① 担任と主任・主幹等が客観的にこどもの姿をアセスメントし、適切な環境や支援の方法を考える
- ② ケース検討会等では情報交換や共有を行い、多面的にこどもの姿を捉え、チームで保育することを心がける
- ③ ①②の内容をもとに、こどもが困っている行動への仮説を立て支援する
- ④ 担任は、こどもの成長を適切にとらえ、支援の継続や再構築を検討する

⇒①からのアセスメントの繰り返しの中で、こどもは、スモールステップで成長していく

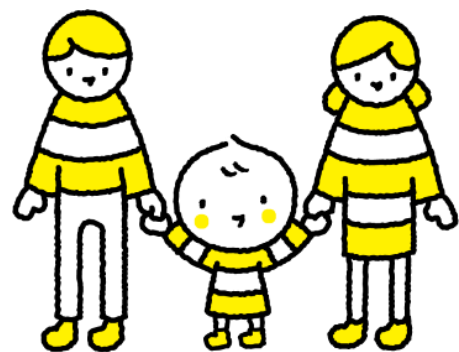


4. こどものアセスメントについて

こどものアセスメントは、こども自身の課題、保育者との関係、置かれている背景等、多面的に関係している状況を把握し客観的な視点をもって実施していきましょう。下記の図をイメージしながら、まずはこどもとの信頼関係を構築すること、そしてアセスメント後も信頼関係が持続できることが大切です。

多面的に関係している状況を把握してこのガイドブックにある「はぐくみシート」を用いて、客観的にアセスメントを実施してみましょう。このシートは、保育者が、こどもがどこで困っているのか、何につまずいているのか、こどもの視点に立ってありのままの姿を読み取り、困っているこどもの状況に仮説をたて、本人の強みを生かしながら、適切な支援を行うために作成しました。毎日一緒に過ごす保育者によるこどもの発達の気づきと、緩やかで丁寧な支援は、目の前にいるこどもの「ワクワクするような未来」へ切れ目なく引き継がれ、こどもたちのウェルビーイングの一助となることを願っています。

ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。（教育振興基本計画より抜粋）



(1)「はぐくみシート」を活用しよう

- このシートは保育者が客観的に発達の状況を把握し、支援の方法を探り、実践して振り返りを繰り返す中で、こどもの理解を深めるものです。こどもの障がいの有無を判断するためや、保護者に医療機関等の受診や検査を促すためのものではありません。
 - 下記の手順で普段の保育に活用してみましょう。
1. こどもが園での生活に慣れた時期（入園、進級から2か月程度過ぎた頃）に、①担任用のシートを用いて、こどもの姿の現状を客観的に把握（＝アセスメント）します。
 2. 複数担任の場合は、相談せずにそれぞれの見方で記入をし、お互いのシートを突き合わせるとよいでしょう。保育観や経験年数で見方に差が生じるのは当たり前です。いろいろな側面からこどもの状況を把握します。
 3. 上記の時期とずらして、主任、主幹教諭等が改めて、②主任・主幹等用シートを用いてこどものアセスメントをします。
 4. ①担任用シートおよび②主任・主幹等用シートで複数の保育者が別々に記入したものを園内カンファレンス等において支援の方向性を検討する際にご利用ください。
 5. その他「個別の指導計画」等を作成する際や、園内研修等でご活用ください。



(2)「はぐくみシート」の記入例

このシートは、担任用です。クラス担任がアセスメントしたものを参考に、主任・主幹と児童の支援の方法を検討しましょう

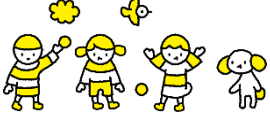
入園、進級から2か月が過ぎた子どもの姿を観察しましょう

取扱注意		提出年度	はぐくみシート(クラス担任用)			受付番号			
施設名	こべっこ園		記入日	2025年7月5日					
児童名	垂水 まいこ		生年月日	2020年5月5日					
①記入者名 (クラス担任)	永田 うみ		クラスの状態	単独	15名	担任	1人	加配	1人
児童の状況						該当する項目の頻度をプルダウン選択			
1. 生活習慣	(1) 極端な偏食があり、白い物しか食べないなどのこだわりがある								
	(2) 毎日している身の回りの整頓(朝の準備など)の手順が身につかない								
2. 運動	(1) 体の使い方が不器用で全身を使った運動やリズム遊びが苦手						時々ある		
	(2) 体力や筋力がなく、動きがゆっくりなため、集団の動きについていけない								
	(3) 手先の不器用さが目立つ								
3. こだわり	(1) 感覚の過敏さ(音・におい・ざわさわ感が苦手)で、保育場面に入れないことがある								
	(2) 感覚の鈍磨さがあり、必要以上に人や物を触る、跳ぶ、まわるなどの行動がある								
	(3) 日課など決められたパターンが変わることを嫌がる								
	(4) 何かに没頭すると、声かけでは気持ちの切り替えができない						1～2回/日		
	(5) 自分の思いが強く、ルールなどに合わせられない						1～2回/日		
4. 行動	(1) 高所に登る、車道に出るなど危険な行動をとる								
	(2) ウロウロすることが多く保育室を出ると声をかけても戻らない								
	(3) 児童や保育者への他害(噛む・叩く・突く・髪を引っ張る・暴言など)がある								
	(4) 器物破損(物を投げる・壊す)などの衝動性がある。								
	(5) 周りの刺激に興味に移りやすく、数分前に聞いたことも忘れるため、声掛けが必要								
	(6) 気に入らないと自傷(自分を叩く・頭を打つなど)行動がある								
5. ことば	(1) 個別に言われたことは理解することができるが、集団場面では難しい								
	(2) 聴いて覚えることが苦手で視覚的な支援があると理解できる						3回以上/日		
	(3) 場の雰囲気や状況がわからず、ふさわしくない言動がある								
6. 情緒等	(1) 予測できないことが起きると、不安になり、緊張して固まったり、激しく泣いたり、暴れる						1～2回/日		
	(2) 表情の変化に乏しく、自分の気持ちを表現することが苦手なため、困っていても気づいてもいない								
	(3) 特定のおとな(親、保育者など)に対して、非常に甘えたり、急に攻撃的になったり								
7. 対人関係	(1) 人から関わられることを嫌がる								
	(2) 相手が嫌がっているにもかかわらず、執拗にちよっかいをかけてしまう								
	(3) 相手の気持ちがわからずトラブルになる(相手の立場にたてない)						1～2回/日		
得意な事 好きな事	恐竜が好きで、恐竜図鑑を見たりや恐竜のおもちゃを使ったりして、見立て遊びができる								
	こどもが好きなこと、得意なことは何ですか。得意や好きなことから支援の手立てに繋げましょう								
保護者の 願い	痾癪を起こさずお友達と一緒に仲良く遊んでほしい								
	保護者の願いはどんなことですか。保護者の願いを理解して保護者支援の手立てに繋げましょう								
児童の育ちに必要と思われる指導計画									
1	個別の指導計画						○		
2	<児童の育ちに必要と思われる保育の手立て> 個別の指導計画がある場合は不要 ・ 区役所等の健診等の結果 ()								
「はぐくみシート」をもとに個別の指導計画を作ってみましょう。									

この欄については次のページにて説明します

(3)「はぐくみシート」の児童の状況欄の補足説明

- 児童の状況欄のあてはまる項目を選んでください。
- パソコン画面では「日に1～2回ある」「日に3回以上ある」もしくは「時々ある」「常にある」のいずれかをプルダウンします。当てはまらない項目は空欄にしてください。
- 項目ごとに詳しい状況を補足していますので参考にしてください。
- 周囲の子どもと比べずに、該当児童の発達の状況を捉えていきましょう。

児童の状況の補足説明	
1. 生活習慣	(1) 極端な偏食があり、白い物しか食べないなどのこだわりがある
	・食べ物の色や食感の極端なこだわりがあり、同じ食材(白いごはんと鶏肉など)ばかり食べる ・温度、におい、口腔内等、感覚過敏が見られ、食べることができる食材が少ない
	(2) 毎日している身の回りの整頓(朝の準備など)の手順が身につかない
	・ワーキングメモリー<*注1>がうまく機能せず、すべきことが覚えられない ・周囲に刺激が多いと興味が次々に移り、数分前に聞いたことを忘れてしまう
2. 運動	(1) 体の使い方が不器用で全身を使った運動やリズム遊びが苦手
	・手と手、目と手、足と手など、別々に動く機能をまとめて1つにして動かすことが困難で、ぎこちなさが見られる(体操・リズム遊び・跳び箱・縄跳びなど) ・自分自身の身体に関するイメージ<ボディイメージ*注2>が持ちにくく、力を入れる、力を緩める、かがむなどの動きが難しい(距離感や高い低いという空間の位置関係を正確にとらえることが苦手)
	(2) 体力や筋力がなく、動きがゆっくりなため、集団の動きについていけない
	・体幹がしっかりしておらず、姿勢保持が難しい(椅子をガタガタ揺らす、椅子からずり落ちた姿勢になる) ・筋緊張の低さから姿勢は崩れやすく、動きがゆっくりである ・動くのがおっくうで、動くとすぐに疲れてしまう ・ボーっとすることが多く、活動が止まってしまう
	
	(3) 手先の不器用さが目立つ
	・靴下がはけない、衣服の着脱が思うようにできない ・肩、ひじ、手首を安定させて動かすことが難しく、スプーンや鉛筆の操作が難しい ・折り紙を折ったり、のりを使ったりがスムーズにできない

3. こだわり	(1) 感覚の過敏さ(音・におい・ざわさわ感が苦手)で、保育場面に入れないことがある
	・大きな音や特定の音、トイレのにおい、風の通る感じ等の刺激に過剰に反応する ・周りの子ども達が動き回っている音や目に見える事象の情報が多すぎてしんどくなる
	(2) 感覚の鈍磨さがあり、必要以上に人や物を触る、跳ぶ、まわるなどの行動がある
	・刺激に反応する感覚が鈍いため、力を入れすぎたり、危ないものもすぐに触ったりしてしまう ・体の内側にある感覚<*注3>が鈍いため、動き回る、ピョンピョン跳ぶ等の落ち着きがない行動をする ・扇風機など回転しているものを見続けることや、ブランコに長時間乗り続けること等が見られる
	(3) 日課など決められたパターンが変わることを嫌がる
	・新しいことに対して、前もって話を聞いてもイメージや見通しが持てない ・好奇心よりも不安が強いため、すぐに新しいことを受け入れることが難しい
	(4) 何かに没頭すると、声かけでは気持ちの切り替えができない
	・自分が納得するまで、遊びを終われない ・自分のタイミングがあり、全体の動きに合わせにくい ・次に行う場面のイメージが持てないので、目の前にある物から離れられない
	(5) 自分の思いが強く、ルールなどに合わせられない
	・初めてのことは納得するまでに時間がかかる ・一番がわかりやすいので、一番に並ぶことにこだわる ・ゲームに負けると自分の気持ちが納められずに、泣いたり怒ったり、活動から離れたりする ・こうあるべきという思いが強く、それにしばられ、気持ちがしんどくなることがある
4. 行動	(1) 高所に登る、車道に出るなど危険な行動をとる
	・危ないとわかっていても、他の様々な刺激や情報に注意が奪われ衝動的に動いてしまう ・衝動性が高く、手を繋ぐなどの身体的な接触による制止が必要
	(2) ウロウロすることが多く、保育室を出ると声をかけても戻らない
	・保育室は出ないが、部屋をウロウロして動き回ること、気持ちを安定させている場合がある ・遊びに興味がなくなると、保育室を飛び出すことがよくある ・保育室を出ると遊び方や社会ルールがわからず、危険な行動をするため、常時見守りが必要
	(3) 児童や保育者への他害(噛む・叩く・突く・髪を引っ張る・暴言など)がある
	・友達とのかかわりの中で乱暴な言葉を言う、叩くなど攻撃的な行動が頻繁に見られる
	(4) 器物破損(物を投げる・壊す)などの衝動性がある
	・投げてはいけないと理解していても、衝動的に投げてしまうことが多い
	(5) 周りの刺激に興味に移りやすく、数分前に聞いたことも忘れるため、声掛けが必要
	・多くの刺激の中から重要な物事に注意を向けることが難しい ・関係のない刺激や情報に引っ張られやすく、1つのことを持続するのが難しい
	(6) 気に入らないと自傷(自分を叩く・頭を打つなど)行動がある
	・注目してほしい、欲しいものを手に入れたい、嫌な状況を避けたい等の気持ちを表現できず自傷行動をとる ・不快な音等をかき消すために、自分の頭をたたく等の自傷行動をとる

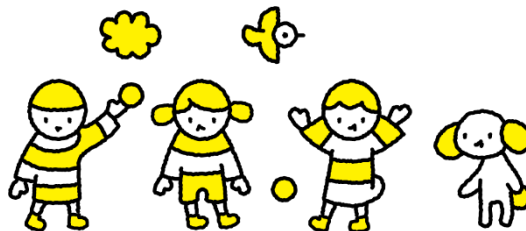


5. ことば	(1) 個別に言われたことは理解することができるが、集団場面では難しい
	・言葉のみで複数の指示は、理解することが苦手である ・集団場面では自分に話を向けられていることに気づきにくい ・興味のある話は聞くことができるが、そうでなければボーっとしたり違う行動をしたりする
	(2) 聴いて覚えることが苦手で視覚的な支援があると理解できる
	・複数の指示内容は、処理が追いつかないため、先に言われた事の内容を忘れてしまう
	(3) 場の雰囲気や状況がわからず、ふさわしくない言動がある
	・静かにする場面でも、だしぬけに突然しゃべり出す ・自分の興味ある話をずっと続けてしまう
6. 情緒等	(1) 予測できないことが起きると、不安になり、緊張して固まったり、激しく泣いたり、暴れたりする
	・不安になって緊張したり、激しく泣いたりすると、とても長引いてしまう ・自分で気持ちを切り換えることが難しく、個別に対応してもらっても時間を要する
	(2) 表情の変化に乏しく、自分の気持ちを表現することが苦手なため、困っていても気づいてもらえない
	・本人の表情の変化が乏しいため、集団の中にいると気づかれにくい ・困っていること、嫌なことを言葉で表現することが難しく、大人をじっと見つめたり、その場で固まったりするなどの態度で示す
	(3) 特定のおとな(親、保育者など)に対して、非常に甘えたり、急に攻撃的になったりする
	・情緒の基盤が安定していないため、大人に対して独占欲が強い ・自分の気持ちを察してもらえないと、瞬間的に叩く、噛むなどの乱暴な行動が見られる
7. 対人関係	(1) 人から関わられることを嫌がる
	・自分の場所、自分の遊びのペースが邪魔されるとイライラしたり、大きな声を出したりする ・一人遊びが得意で、自分の使っている物に触られると、大騒ぎをする ・誰かと感情を共有することが難しい
	(2) 相手が嫌がっていても、執拗にちょっかいをかけてしまう
	・相手の気持ちの読み取りや共感が難しい ・周囲のこどもの状況の変化に気づきにくい
	(3) 相手の気持ちがわからずトラブルになる(相手の立場にたてない)
	・一方的に自分の主張ばかりする ・友だちとの遊び方を知らないため、相手が反応を求めて、人の嫌がることや傷つくことを言う ・自分が悪くても非を認められない ・思い込みが強く他者の考えを受け入れることが難しい
* 注1: ワーキングメモリー : 「脳のメモ帳」といわれ、複数の言葉を一時的に記憶して行動する時に使われる機能。容量が小さいと一度に複数のことを覚えられず、指示通りの行動ができないこともある。 * 注2: ボディイメージ : 自分の体の実感ともいえるもので、この機能が弱いと自分の体の輪郭や位置、サイズなどがつかみづらく、見えない所で自分の体がどうなっているのかが分かりづらくなる。 * 注3: 体の内側にある感覚には固有覚と前庭覚があり、固有覚は筋肉や関節に感じる感覚、前庭覚は体の傾きやスピードを感じる感覚である。この2つは、立つ・歩く・走る等の基本的な動作や、箸を使う、洋服を着る、体を洗うなど日常生活動作すべての体の動きをコントロールするために必要である。	
「多様な子どもたちの発達支援」 藤原里美著 より	



(4)「はぐくみシート」を利用して教育・保育の質の向上と個への支援の充実を

- こどもの状況を把握し、必要に応じて支援をしましょう。
- 施設では個に対応することが全てでなく、日常の教育・保育の質の向上が支援の土台となります。
- こどもを変えるのではなく、周りの環境や関わりを変えることで、こどもの強みが活かされることもあります。（まずは自分の保育を振り返りましょう）
- こどもの好きなことや得意なことを生かしましょう。遊び（＝学び）に夢中になると、いつの間にかできることが増える魔法のような保育を見つけましょう。
- 発達に凸凹があるこどもたちは、苦手なこと、習得しにくいことが多いです。定型発達のこどもたちと同様の発達の道のりも、様々な無数の階段を登りながら進んでいくことを想像しましょう。普段から、誰でもわかるような課題の提示などを行い、「手伝ってもらってできた」「ここは自分でできた」「最後は自分でできた」「わかってできたよ」と少しずつ歩んでいけるような丁寧な保育を心がけましょう。
- 保育者の姿を周りのこどもたちも見て学んでいます。クラス全体でインクルーシブな保育を推進し、心豊かな言葉がけで共育ちを楽しみましょう。



5. 神戸市発達支援保育リーダーについて

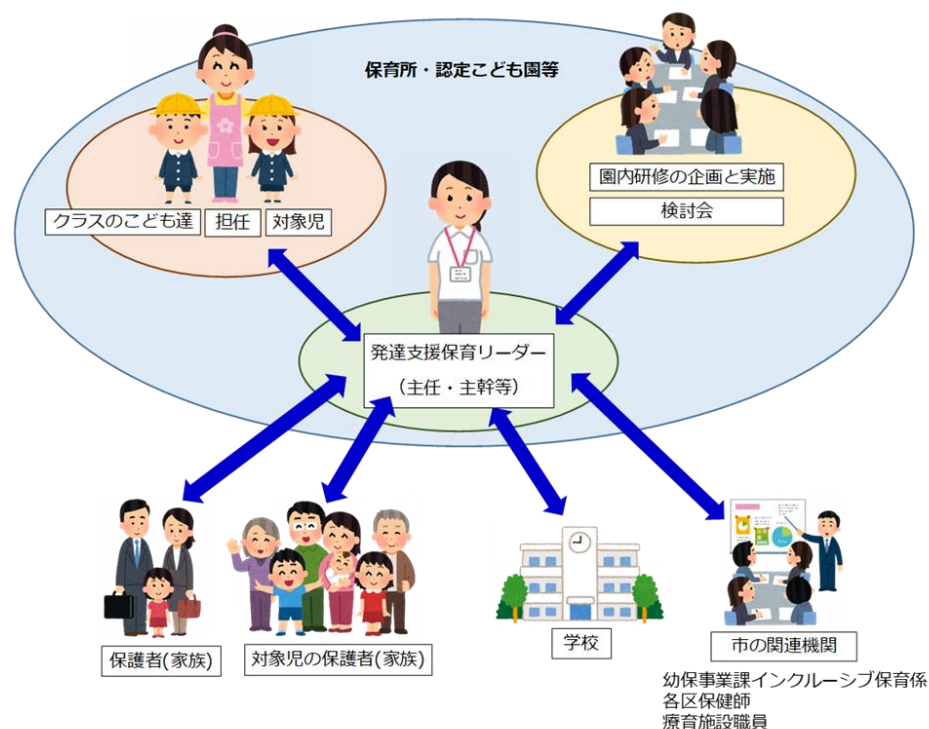
神戸市では、「障がいがある・なし」や「こどもの置かれている状況や背景」にかかわらず、多様なこどもたちがかかわり合いながら育ちあえるインクルーシブな保育を推進しています。各施設の保育の充実や対応力向上の一助として、発達支援保育リーダー育成研修を実施します。

発達支援保育リーダー育成研修では、インクルーシブ保育の理念に基づいた保育現場での丁寧な保育、関係機関との連携、保護者支援などを学びます。リーダーは、こどもたちが毎日安心して過ごすことができるように、担任や保護者の相談に対応し、サポートします。また、関係機関との連携や調整を丁寧に実施し、切れ目のない支援を実現します。

●発達支援保育リーダーの役割

- 担任が一人で抱え込まないように、相談や助言を行う
- 保護者からの相談対応や適切な支援の方法を助言
- 一人一人のこどもたちが、安心して過ごすことができるような環境を調整する
- 施設の職員みんなで、同じ支援できるように園内研修の実施
- 関係機関との連携や調整

【参照：発達支援保育リーダーの役割図】



6. インクルーシブの視点で考えよう

障がいの有無やこどもの置かれている状況や背景にかかわらず、多様な子ども達がかかわり合いながら育ち合えるインクルーシブな視点で、仮説を立てて実践してみましょう。



① わかってほしいな こどもの気持ち

- ・ はじめて行く場所や、はじめての活動が苦手
- ・ 今、行っている活動から、次の活動に切り替えることが苦手
- ・ いつもとちがうことをすると、わからなくなり、パニックになる
- ・ 毎日していることなのに、作業手順を覚えるのが苦手



なぜだろう??

こどもの行動の理由に仮説を立てよう！

- いつも同じ場所・同じ活動は安心、でも新しいことは次に何があるか見通しが立たないため不安がいっぱいなのかな？
- 毎日していてもたくさんやることがあると、丁寧に教えてもらってもなかなか覚えられない。忘れてしまうのかな？
- できるときとできないときがあるな？ そういえば、今日は朝から機嫌が悪かったなあ？



仮説を立てたら まずは、やってみよう！

« スケジュール表の活用 »

- ・ 一日の出来事がどのように流れているか、予測可能なように日課を事前に伝えることで、こどもの不安を軽減します。
- ・ 目で見える形にしたスケジュールは何度でも見ることができ、安心できます。
- ・ 普段から見える形でスケジュールを知らせていると、変更や変化に対しても柔軟に対応できるようになります。



« 時間の終了の合図 »

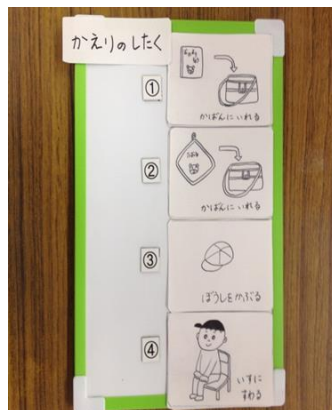
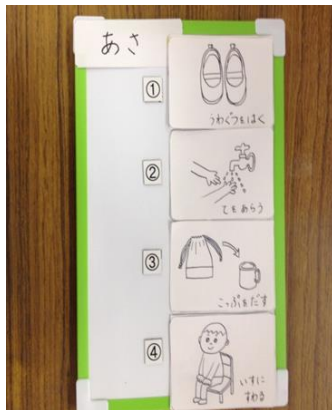


- ・ 物事には必ず終わりがありその次の活動に繋がっていきます。
- ・ 時計の長い針と数字をマッチングさせます。
- ・ 例えば2時30分になったらお片付けを始めることを伝えます。
- ・ 前もって知らせておくことで、時計を見ようとし納得できます。
- ・ 数字の横に果物など子ども達にわかりやすい印をつけることで、数字が読めなくても見てわかります。

≪ 生活手順表の活用 ≫

- ・指示はできるだけ端的に、具体的に、1つずつ伝えることを心がけましょう。
- ・2つ以上の指示を出すときは、思い出せるように視覚的手がかりを提示するとよいでしょう。丁寧に伝えることは当然ですが、思い出せるように情報を整理しておくことも大切だと考えて、環境を作ります。
- ・将来的に変わらない良い習慣は、幼児期からきちんと身につけておきましょう。（トイレの手順・手洗いの方法など）

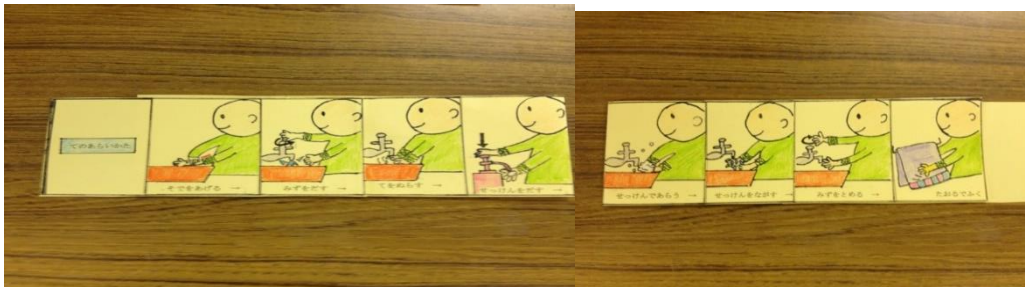
≪ 生活手順表 ≫



- ・表示は 左から右へ 上から下へ
- ・子ども達が見えるところに掲示
- ・イラストと文字をセットにしたカードを作り、すっきりと表示
- ・予定の入れ替えがしやすいものを利用（マグネットやウォールポケットなど）
- ・写真の方がわかりやすい場合もある



≪ 手の洗い方 ≫ 手順を確認しながら 手洗いをすることができます。



視覚支援を利用することで…

- ・見てわかることで「自分でできた」が経験できます
- ・聞いて理解することを補助できます
- ・気持ちや行動をコントロールする準備ができます
- ・思い出して行動できます





② わかってほしいな

こどもの気持ち

- ・ 順番の意味がわからず列に並べない、待つことが難しい
- ・ 部屋が変わるとどうすればいいのかわからない
- ・ 「あっち」「ちょっと」「ちゃんと」など抽象的な言葉はわかりにくい
- ・ 集団場面では自分に話を向けられていることに気づかずに、聞き逃してしまいわからなくなる



なぜだろう??

こどもの行動の理由に仮説を立てよう！

- 大きな集団・広い空間ではどこに注目するのがわからず、不安になるのかな？
- みんなの声や動きなどいろいろな刺激があって、疲れたり、落ち着いて過ごせないのかな？
- そもそもことばの意味がわからないのかな？
- 「みんな」の中に「○○ちゃん（自分の名前）」が含まれていることがわからないのかな？



仮説を立てたら

まずは、やってみよう！

《 順番をわかりやすく 》

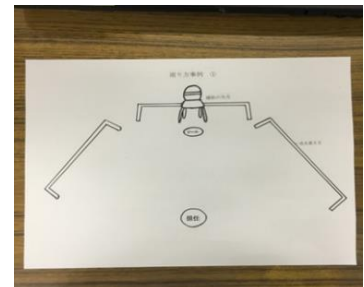
- ・ 手洗いを待つ順番を、足型で表示。
待ったり並んだり苦手な子にもルールがわかりやすく
友だちともぶつからずトラブルになりにくくなります。



《 座り方の例 》

いすを並べる場所をビニールテープで色分けして区切ってみると

- ・ それぞれのグループの場所（範囲）がわかりやすくなります。
- ・ 保育者の正面が集中しやすく、声掛けがしやすくなります。
- ・ 個人マークのシールで表示すると、よりわかりやすくなります。



《 自分の場所をわかりやすく 》

- ・ 1面を足型、もう1面を丸型にして、その場に立つ、座ることを知らせます。
- ・ 行事や健診などいろいろな場面で活用できます。



《 話を始める前に 》

- ・ 合図をしたり、目を合わせたりなど行ってから話を始めましょう。



- ・ クラスのこども達みんなにとっても、わかりやすく、過ごしやすいです
- ・ こども達のわからない不安や失敗を軽減させることができます
- ・ こどもはその場所に行くとな何をするのがわかり、見通しが立つことで安心できます



③ わかってほしいな

こどもの気持ち

- ・ 近くにいる友だちをなでただけなのに、たたいたと言われ悲しくなる
- ・ 思いが伝わらないから、大きな声を出す
- ・ 友だちから指摘されたり、自分の思いを受け入れてもらえなかったりすると、自分自身を否定されたと感じ、怒ったり泣いたりする
- ・ じっとすることが苦手目まぐるしく動いてしまう
- ・ 朝の会での話の意味がわからない、興味がないから、途中で抜け出してしまふ



なぜだろう??

こどもの行動の理由に仮説を立てよう!

- 友達を押したり、大きな声を出してしまうのは、力のコントロールが難しいからなのかな?
- 友達や物にぶつかってしまうのは、自分の身体の大きさや可動域がわからないからなのかな?
- そもそも本人がどのようにしたかったのかな?
- 予測が立たないことが生じると不安で衝動的な行動に繋がるのかな?
- 部屋を抜け出す、活動から外れるなどの行動は、感覚の過敏さがあるから、その場にいるのが辛いのかな?



仮説を立てたら

まずは、やってみよう!

« こどもの気持ちに寄り添ってみよう »

- 適切なかわり方を根気強く伝えましょう。
- 本人が満足できるようなダイナミックな活動や、身体の動きをコントロールする機会としてゆっくり動かす、バランスをとる等の活動を提供し、身体づくりから始めてみよう。
- 事前予告をしてみよう。次の活動を視覚的に示し見通しを持たせて安心感に繋げよう。
- 自分で気持ちをコントロールできる方法を一緒に見つけていきましょう。これは将来に向けて必要な力となります。



参加の仕方は人それぞれ違って当たり前。その子の参加の仕方を認めていきましょう

- ・ 結果を急がずに長い目で見る事が大切
- ・ こどもの気持ちに寄り添い、安心感を育てよう。そうすることで、こども自身が相手の話を聞こうとするようになります

安心ボックスを作ろう ~イライラを受けとめよう~

安心できる物を箱に入れて保育室に常備し、いつでも取り出せるようにしておきます

好きな物を使うことで気持ちが落ち着いてきます
イライラしたとき、自分はどうしたらいいかわかるようになっていきます



好きな感触 (ボール・タオル・人形)
好きな匂い・音楽・絵本・玩具など





④ わかってほしいな こどもの気持ち

絵を描くことや制作あそびが苦手

- ・手先が不器用で自分の思うように描いたり作ったりできない
- ・制作の手順が覚えられない
- ・集中が途切れてしまう



なぜだろう??

こどもの行動の理由に仮説を立てよう！

- 手や指先を思うように上手く動かせず、途中で嫌になってしまうのかな？
- 複数の工程を覚えることが難しいので、何をしてよいのか途中でわからなくなるのかな？
- 上手くいかないことが続くと制作の途中で飽きるのかな？だから、自分の気になる事象に関心が移ってしまうのか？



仮説を立てたら

まずは、やってみよう！

- 作業の工程はできるだけ細分化して、1工程を伝えて1つできたら承認の言葉がけをして次のステップに取り組めるようにしよう。
- できないところは手伝ってもらい「できた」という満足感、達成感を積み重ねていくと「またやってみよう」という意欲が育ちます。

≪ 製作手順カード ≫

【折り紙の折り方】



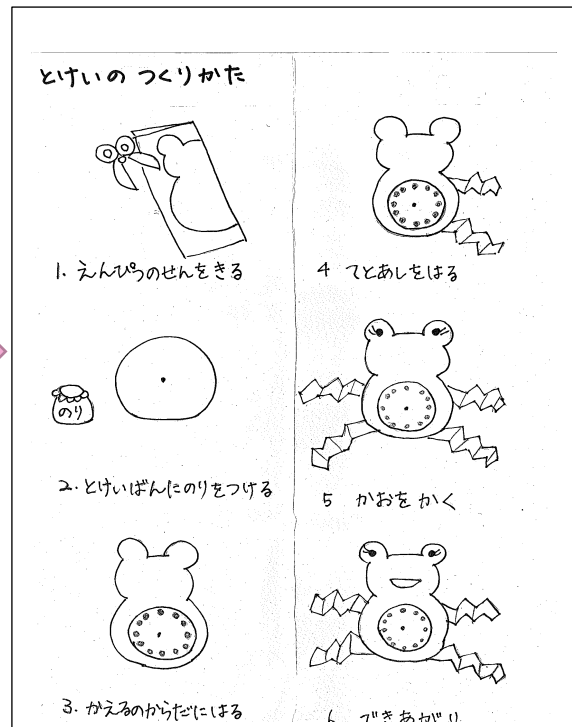
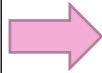
折り紙の折り方を1ページごとに1工程を示しておくと、いつでも自分で振り返って確認することができます

- ・作り方の手順を絵や写真、実物で表して、手順をステップごとに示します
- ・手順が書かれたカードやボードを作業している机の上に置くまたは、個別に渡しておくようにして、わからなくなった時いつでも見て確認することができるようにします
- ・ステップはできるだけ細分化し、ひとつできたら承認の言葉かけをし、次のステップに取り組めるようにすることが大切です



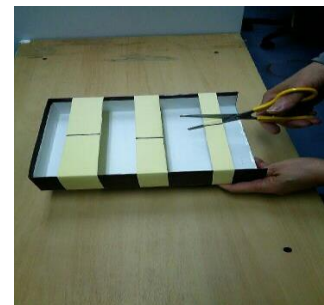
【製作「カエル時計の作り方」】

1～6までの絵を長くつなげて
順番をわかりやすくします



« ハサミの使い方 »

- ・手先の不器用さがあり、活動に苦手意識がある子には、前もってあそびの中でハサミの使い方に慣れるようにします。
- ・ハサミの持ち方を見てわかるように表示します。
- ・空き箱を使って、チョッキン切り、チョキチョキ連続切りができるようにします。



- ・視覚情報があるとクラスの子ども達みんなにとってもわかりやすい
- ・できないところを手伝ってもらい『できた』という満足感、成功体験を積み重ねていくと『またやってみよう』という意欲が育つ
- ・作品の出来ばえを評価する言葉がけ『上手にできたね』ではなく『色がすてき』『元気のある作品だね』など、良いポイントを認めるポジティブな言葉がけで、心が育ちます



⑤ わかってほしいな こどもの気持ち

行事参加が苦手

- ・ 一日の活動のルーティンが変わると不安
- ・ 苦手な活動を頑張らないといけないし、うまくできないのでつらい
- ・ 好きな遊びが十分にできない



なぜだろう??

こどもの行動の理由に仮説を立てよう！

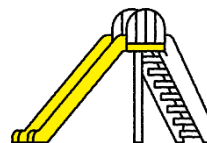
- 楽しいはずの行事が苦手なこどももいるのかな？
- 行事の日が近づくと練習のために毎日の予定が変わる事が多くなるから、行事への参加は、楽しみよりも不安や混乱を感じてしまうのかな？
- 「いやだ」と伝えられずに、もやもやしているのかな？
- よく知らない場所、人に対しては、わからないことだらけになってしまうのかな？
- 他の活動や練習が多くて、毎日の自分の好きな遊びが十分にできないのでつらいのかな？



仮説を立てたら まずは、やってみよう！

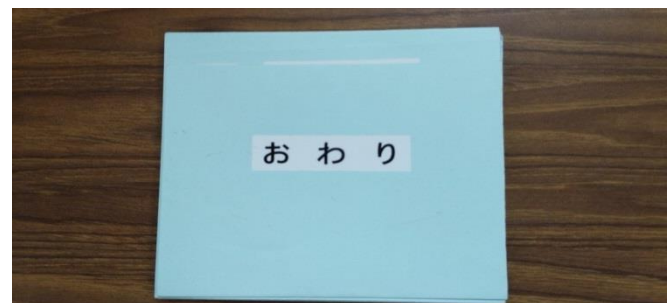
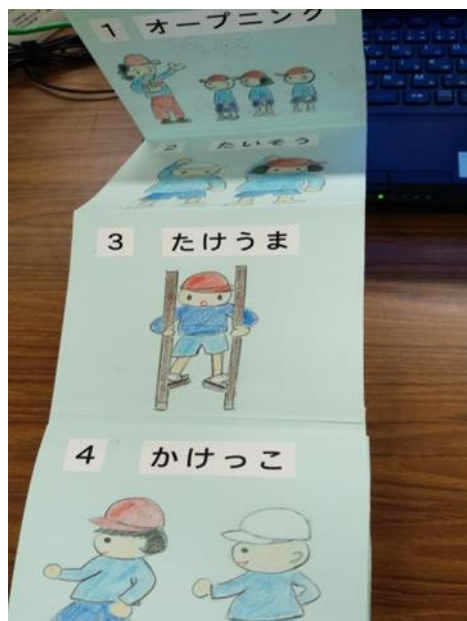
➤ 行事予定や内容を理解できる方法や楽しく参加できる方法を見つけよう！

- ・ こどもが見通しを持てるように、言葉だけでなく視覚支援や当日のスケジュールも使って事前にわかりやすく伝える。
- ・ 何をするのかより具体的に予測できるように、昨年度の写真やビデオを活用する。
- ・ 事前に当日スケジュールを予告し、見通しをわかりやすく伝える。
- ・ こどもが興味を持てる内容を取り入れたり、全部に参加出来なくても参加できる部分を見つけてたりして、無理のない計画を立てる。



- こどもの「やってみよう」の気持ちを承認しましょう。
- ・部分的にできたところを「今日のポーズよかったよ」「大きな声のでていたね」と具体的な言葉をかける。
- ・友だちの様子を見ていて、やりたい気持ちになっている心の変化に気づき、「やってみたいんだね」「一緒にしてみようか」と声をかける。保育者と一緒に参加すると安心する。
- 身体の動かし方がわからないこどもには、事前に保育者と一緒にやってみる。
- ・保育者と1対1で事前に遊ぶことで、身体のどこを動かしてどこに力を入れるかということを実際に触れて感じられるようにする。

≪ プログラムの一例・じゃばら折りタイプ ≫



- ・プログラムは、写真など本人のわかりやすいものを使う。カード式にする。
- ・出番のところにマークをつけるなど本人に合った形を考える。



- ・何をどうするのが理解できるようになると、行事を楽しめるようになります
- ・大人に褒めてもらえると安心感が生まれ、小さな自信になります
そして達成感や満足感を持って意欲的に活動に参加するようになると、次のステップに進んでいくことができます
- ・そのこどもに合った工夫をしましょう

7. クラスが落ち着くために

あったかいクラス作りをしよう！

保育者が「安心して過ごせるには…」を心掛け、「落ち着いて遊びや生活に向かえる環境作り」をすることで、こどもが安心して過ごせます。また「やってみたいと思う遊びの提案」がこどもの意欲を育てます。一人一人の気持ちが満たされることで、お互いを認め合う「あったかいクラス作り」に繋がっていきます。

保育者の言葉がけのポイント

- ・ 保育者が、好意に満ちた声かけをする・・・こどもを信じる・こどもの話を丁寧に聴く
 - * 保育者が先回りをせず、こどもが自発的に伝えようとする力を育むために、待つことも大切です
- ・ 良い行動に反応し、短く具体的に回数を多くほめる
- ・ 感情的にならず、短くわかりやすく、回数を少なく注意する
- ・ わかりやすい話し方・指示の仕方・・・簡潔に・抑揚をつける・間を大切に
 - 非言語を利用する(アイコンタクト、うなずき等)
- ・ あわてず、落ち着いて、穏やかで静かな声で話す

このような積み重ねが、こども達に伝染していきます

優しい柔らかい言葉を友だち同士、たくさん伝えあうようになります

- ・ こどもがしんどそうなとき・・・少しの時間でも、ぎゅっと抱きしめよう
- 大好きな人に、ぎゅっと抱きしめてもらおうと嬉しいですね**

ポジティブなイメージに言葉を言い換えよう



- | | | |
|-------------------|---|--|
| ・ 早くしなさい | ⇒ | ・ ○○までにできるかな？（タイマー使用） |
| ・ 静かにします | ⇒ | ・ 声のボリューム「2」にしてくれる？
（声の5段階表使用）
・ 先生の話きいてほしいな |
| ・ 走らないよ | ⇒ | ・ 歩こうね（やっていいことを具体的に） |
| ・ 「いや」そんなこと言ったらだめ | ⇒ | ・ そうか～、いやなんだね
（感情は否定しない） |
| ・ （転んで）痛くないね | ⇒ | ・ 痛かったね（共感＝安心感をうみ受けたショックが和らぎます） |

どこに何があるの？ どうやって食事の用意をするの？ 保育者の話はどこで聞くの？ など、こどもが困った時に視覚支援や動線の工夫があると、迷いが少なくなり分かりやすいです。わかるこどもが増えてくるとクラス全体が落ち着いてきます。

視覚支援などのヒント

- ・視覚支援・・・座る位置を示す・スケジュールボード・持ち物準備ボードなど
保育室（おもちゃ棚など）の構造化を行うことで、どこに何があるか
わかりやすくなります
- ・毎日のこどもの動きは、わかりやすい動線にする・・・お茶を飲むときの動線・着替えの
場所などの工夫
- ・安心できる空間の確保

« 環境構成の例 »



取り出しやすく
片付けやすいよ



少人数で落ち着ける空間
を作ってみました



一人でじっくり
遊べることを大切に

発達のはじまりは遊びから！

保育者は自己主張してほしい、行動のコントロールをしてほしい、周りに合わせた行動をしてほしいと願いますが、遊びの中で「心地よくやり取りできた」「楽しいからルールを守れた」「おもしろくて集中できた」という体験を保障しましょう。こどもは「工夫次第でできる」「遊びの中ならうまくいく」と自分を見直します。そして保育者もこどもを支援するためのコツをつかめます。こどもと共に遊びを楽しみましょう。

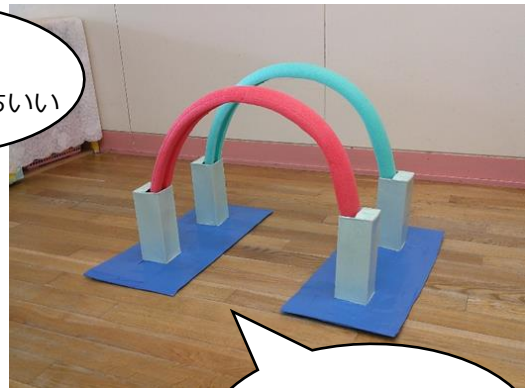
遊びについてのヒント

- ・それぞれのこどもが興味を持っている遊びは何か、一緒に遊んで見つけていきましょう
- ・好きな遊びをじっくりと楽しみ満足すると、他への興味が広がってきます
- ・ゲームのルールは簡単にして、勝ち負けをクローズアップしません
- ・静かな時間も大切に、静と動の遊びのバランスをつける
- ・ルーティンの日課を入れるとわかりやすいこどももいます

「 園で工夫されていた例 」



凸凹みち
面白いし気持ちいい



そっと当たらずに
くぐれるかな～

マッチング遊び
全部できたら
スッキリ！



お部屋で身体を
動かせるコーナー



8. ワンポイントメッセージ

巡回を通して、心に残る応援メッセージを集めてみました。

保育の中ではうまくいかないこともあります。こどもはきっと成長するだろうという楽観的でおおらかな態度が大切です。こどもと先生方の笑顔が増える工夫をして、成長を促しましょう。

こだわりは

自分を守るための行動で

悪いことではない

こどもは安心して

自ら成長する

手持ちの力で

今できることを豊かに

強く我慢させた体験は

成功に繋がることはない

日々の言葉やかかわりは

積み重なっていく

0か100かで考えない

長期的な視点で成長を促す



保育の中で、「できるようになること」「できることが増えること」だけを目指すのではなく、こども達が大好きな人（保育者・友だち）や大好きなものに支えられて自ら「～したい!」という思いを持つことが大切です。大人はこども達が、外の世界に働きかけ、周りや自分に起こった変化を取り込み、自分の世界を少しずつ広げていくように援助していきましょう。人と関わることの楽しさを伝えていきましょう。



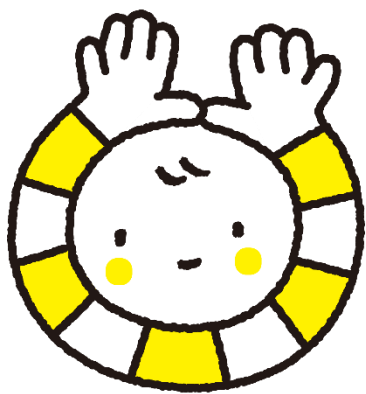
◎ 参照資料

- ◆ 「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」 文部科学省ホームページ (<https://www.mext.go.jp/>)
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/2e3036e5/20240603_policies_hoiku_112.pdf
- ◆ 「発達が気になる子ども 障害のある子ども 医療的ケアが必要な子どもの支援ハンドブック」 神戸市ホームページ
https://www.mext.go.jp/content/20230309-mxt_youji-000028051_20.pdf
- ◆ 「多様性の時代と変化する子育て事情」 一瀬早百合 著
- ◆ 「多様な子どもたちの発達支援」 藤原 里美著

◎ その他参考資料

- ◆ 「神戸っ子 すくすくハンドブック」 神戸市ホームページ
<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/5662/sukusuku2024.pdf>
- ◆ 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの 100 か月の育ちビジョン）こども家庭庁ホームページ
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/6e941788-9609-4ba2-8242-42f004f9599e/64c1f5ab/20230928_policies_kodomo_sodachi_07.pdf
- ◆ 一般社団法人保育教諭養成課程研究協会「特別な配慮を 必要とする幼児への 指導の充実(1/2)」
文部科学省ホームページ (<https://www.mext.go.jp/>)
https://www.mext.go.jp/content/20230510-mxt_youji-000029664_10.pdf
- ◆ 一般社団法人保育教諭養成課程研究協会「特別な配慮を 必要とする幼児への 指導の充実(2/2)」
文部科学省ホームページ (<https://www.mext.go.jp/>)
https://www.mext.go.jp/content/20230510-mxt_youji-000029664_11.pdf
- ◆ <兵庫県教育委員会事務局> 義務教育課> 幼稚園教育に関すること> 幼児教育資料
親子ノート「すくすく ひょうごっ子」
https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/08sukusuku/pdf/01sukusuku_youji.pdf
兵庫県教育委員会ホームページ (<https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/kindergarten/sukusuku>)
- ◆ 令和 3 年度児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所 巡回支援事業 支援事例集
神戸市福祉局 障害者支援課
<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/43679/r3junkaisienjireisyu.pdf>

☆ 冊子をまとめるにあたり、神戸市総合療育センター診療所長 高田 哲 先生にご助言をいただきました



こどもっと
K O B E

神戸は、もっと
子育てしやすい
街になろう。

支援やサービスはもちろん、
人も自然も一緒になって、
もっと親子を応援しよう。
子育てにやさしい街に
なることで、子どもたちの
元気があふれ、笑顔が
はじける神戸になろう。

子育てに、笑顔を。
もっともっと。